

# 日銀事務所長の あさひかわ経済 あれこれ No.18

## 旭川が目指すべき 観光スタイル

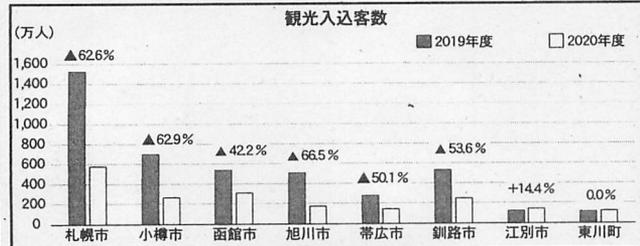
な流れの中で糸を垂れて山黒岳に登りました。いると、不思議と心が落ち着きます。

今月、緊急事態宣言下ではありましたが、感染に注意しながら、2回ほど日帰りで観光に出かけました。

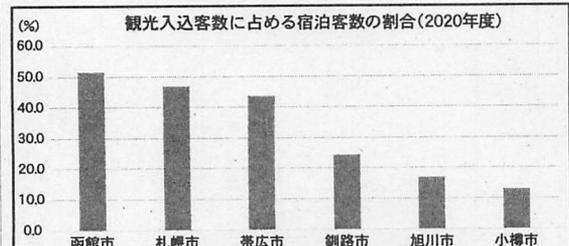
まずは釣りです。旭川から車でオホーツク方面に向かった、とある溪流でオシロコマを釣りしました。オシロコマは、日本では北海道にしか生息していないサケ科の淡水魚で、絶滅危惧種に指定されています。絶滅危惧種と聞いたときは、釣って大丈夫なのかと心配になりましたが、禁漁期を外せば、釣ることは許容されているとのこと。縁に囲まれた清らかな

釣果は9匹と、人生初の釣りにしてはまずまずでしたが、知識も技術もゼロの私は、針を糸につけることも、釣った魚から外すこともままならず、お誘いいただいた指南の方の手を大いに煩わせました。釣った貴重な魚は、天ぷらと唐揚げにして美味しくいただきました。次は登山です。秋晴れの天気の良い日に大雪

めには何度か休憩を挟んでも、すぐに息が切れます。言うことをきかなくなると足を引きずりながら、それでも何とか登りきると、視界が一気に開けて360度の大パノラマです。初めて見る大雪山の山々の峰と谷筋の雪渓が作り出す雄大な景色に心を奪われました。



(注)数字は2020年度の2019年度比。(出所)北海道「北海道観光入込客数調査報告書」



(出所)北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

途中で紅葉を見るたこの秋の釣りと登山は、いずれも改めて北海道の豊かな自然と生命の恵みを実感させてくれる貴重な体験となりました。

市町村別(実人数)にみても、江別市や東川町といった、3密を回避できるキャンプ場やスキー場の集客が好調だった一部を除き、ほとんどの自治体で大きく減少しました。旭川市の観光入込客数も大きく減少(170万人、前年度比▲66.5%)し、その減少幅は北海道全体や道内の他の主要都市を上回りました。旭川市の観光入込客に占める宿泊客の割合は依然として低いままで。

客の幅広いニーズに配慮されるように複数のコースを用意するとともに、交通アクセスを良くして周遊性を高めることが重要です。駅やホテル、旅行会社を通じたPRも欠かせません。臨機に日帰りツアーを催行できる態勢づくりのほか、海外からの旅行者には外国語対応も必要でしょう。

越えるべきハードルはありますが、関係者が幅広く連携し、人材や組織など既存の資源を充分活用すれば、やれることはあるのではないのでしょうか。コロナ禍で観光客が少ない今こそ、先を見据えた態勢整備を図る好機であるようにも思われます。



【大賀健司(おがけんじ)】一九六五年神奈川県生まれ。青山学院大学法学部卒業。業務企画役、青森支店次長、政策委員会企画役、静岡支店次長を経て二〇二〇年に旭川事務所長に就任。